

居合道 だより

第133号



はじめに

先月の朝倉地方をはじめとした未曾有の集中豪雨で被災された方々に、心より
お見舞い申し上げます。

幸いにも被害に遭わず居合が続けられる我が身をありがたく思っているところ
である。

それにしても暑い。言っても詮無いがとにかく暑い！

我々が小学生の頃は、夏休み中で30度を超えることは1日有るかどうかだっ
たのに。

ここ数年は35度前後が当たり前になってしまっている。この猛暑といい凄まじ
いばかりのゲリラ豪雨といい、地球はそのうちきっとどうにかなってしまうこと

だろう。ただでさえ頭の回転が鈍ってきているのに、このくそ暑さの中、何か書こうなんて、ネタが浮かんでくるはずがない。困ったときは恥を承知の身内ネタでも再登場。

子供の頃、父がよく言っていた。夏のこの暑さが稲を育て、実りの秋がやってくるのだと。そしてこの時期、門弟たちには毎年同じことをしたり顔で訓示する。苦しいほどのこの暑さの中の稽古こそが、まさに修行、本当に身につくのだと。

「言うは易し、行ふは難し」

先日久しぶりに母校の中学校を訪問した。

生徒専用出入口の下駄箱（現今は靴箱か）の中の靴たちが、まるでそれら自体が意思を持っているかのように整然と並んで箱の中に鎮座していた。

心の乱れは足元から現れるものだが、数百足の靴たちが見事にかかとの線まで一直線に整列していたのである。

こんな美しい光景は滅多に拝めるものではない。

その母校の掲示板に貼ってあった一文を紹介して今月号、手抜き版の締めとする。〔中学時代〕を〔修業時代〕、〔学校〕を〔道場〕と読み替えてもらいたい。

<今きみは>

きみの目の前に

つねに二つの道がある 上り道と 下り道と

どちらを選ぶかは きみが決めるしかない

しかし長い間に

山の頂上にたどりつく人と 谷間に入り込む人とができる

中学時代は坂道を登るとき

苦しくても つらくても

学校は坂道を登るところ

主な活動

7月1－2日	居合道地区講習会	大阪府
--------	----------	-----

8・9月の活動予定

8月6日	居合道講習会	アクション福岡
9月2～3日	第45回居合道中央講習会	全剣連 京都武道センター
10日	福岡県居合道段位審査会	福剣連 福岡武道館
24日	福岡県居合道伝達講習会	福剣連 福岡武道館

合格者の声

今号より2回に分けて、六段・七段合格者の声をお届けします。

今回は六段合格の糸島錬心館道場 井手烈太郎先生に寄稿いただきました。

6月30日大阪府において開催された昇段審査会で六段に合格させて頂きました。これも偏に、師匠、先生方、会員の皆様方のご指導のお陰と深く感謝しております。「昇段者の声」ということでしたが、私が日頃から稽古時に心掛けていることについて書かせていただきます。

1. 基本（稽古）を何度も繰り返す。

これは皆さんが実践され、何度も何度も基本の技や動作を繰り返し稽古されていると思います。師匠から「試合は稽古のように、稽古は試合のように」と教わり、稽古で基本が出来ていなければ、試合や演武、審査などで上手くいくことはない、たとえ上手くいったとしてもそれは偶然で、自分の力量ではありません。基本稽

古を疎かにしては、技の上達はありません。また、これでいいだろう、これくらいなら大丈夫だろうという基本（稽古）はありえないと思います。

2. 復習はいいが、予習はしない

師匠や先生方から指導を受け、それを思い出し道場において1人で稽古されると思います。これは「復習」です。この指導されたことを活かして稽古を繰り返し、その中でしか身につかないものを習得すること、私の中ではこれが「稽古」だと思っています。反対に「予習」とは、師匠から習っていない技を動画や本などを参考に練習することです。稽古が「日本の武術や芸事において、過去の達人であった先人の遺した理想的な形、それが師匠や先生方からの「教え」だと思っています。古流で言えば、初伝、中伝、奥伝と段階があるように、師匠から次の段階の技を教えてもらえないというのは、技量がたりないなど何らかの理由があるからです。それを飛び越え、師匠や先生方が演武されるのをビデオや携帯電話で撮影し、それを観ながら習っていない技を自分一人で練習する。研究熱心であり、とても大切なことだと思いますが、これはもはや先述した「稽古」とは言えず、我流の居合、ただ形だけの居合であり、理合に重きを置く居合道とは、延いては武道の本質とは離れていくものではないかと思っています。

3. 為し難きを為すのが修行

小学生の頃、伯父であり、師匠である井手克彦から「為し難きを為すのが修行である」と教わりました。当時は、きつい事、難しいことを出来るように頑張ることが修行なんだと大雑把に解釈していました。私なりに稽古を重ねた今、師匠が言った言葉の意味として

(1)修行は、日々稽古を重ね、工夫・研究して自得する他に方法はないこと。

(2)技を行う上で大事なことは、常に反省、疑問を繰り返し、自問自答すること。

(3)ただ稽古する、ただ汗をかくだけでは本当の上達は望めず、妥協を許さず、無心に修行すること。

と、考えています。文章や言葉で表現しにくい部分が多い居合道ですが、それ故に奥が深く、まさに「道」としての修行です。今後も稽古を重ね、稽古でしか身につかない充実した業前はもちろん、風格、気位、品位等を身につけることが師匠から教わった修行であると思い、これからの稽古に精進していきたいと思っています。

糸島錬心館道場 井手烈太郎



今回は、小倉南居合道会にお邪魔しました。

現在は故・大野先生の後を魚住先生が指導されておられます。女性、少年たちと、かなり練度の高い練習をしてしておられます。

少年から低段者～四、五段とバランスのとれたメンバーで、魚住先生もかなり細かく指導されておられます。

少年同士それぞれお互いに工夫をしながら「ああしようこうしよう」と、切磋琢磨している風景はなんとも心地よい、誰でも何時間でも没頭して稽古していただける雰囲気ができていました。



長尾市民センターにて水曜日 18:00 ~ 20:30

会員の声

小倉南居合道会 5年生 橋下 昂士君（はしもとあきと）

3年生の後半ぐらいから、居合を始めました、級審査はまだ受けていません。毎週必ず稽古している橋下君は、他にも習字や絵画や造形（美術全般）を習っているという多彩な少年です。

居合を始めたきっかけはお兄さんがやっていたからで、得意な技（好きな技）は一本目で、現在12本全て稽古している。見た目体は小柄ですが、技もキレが良く、きっとダイナミックな居合ができる素質があると見てとれました。

今後は頑張って級も受けていくという、将来が楽しみな少年です。



橋下君

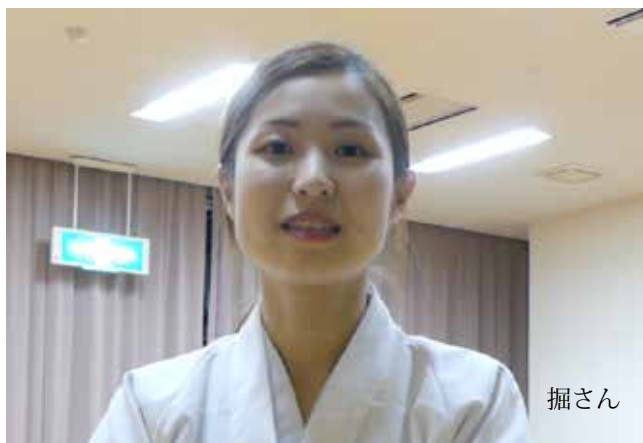


井藤君

小倉南居合道会 6年生 1級 井藤 惇仁君（いとうあつひと）
いつも一つ下の橋下君と教えあいながら稽古している井藤君です。

今回接戦だった少年の部で、1本目3本目5本目7本目9本目を抜いたという。得意技は1本目、好きなのは5本目、苦手なのは武者座りの4本目です。（すぐクリアできると思いますけど）初段は少し先だがその分十分に稽古できそうです。

買ったばかりのピカピカの刀の長さは二尺二寸。将来の目標は八段というまさに千里の志を持った少年です。



堀さん

小倉南居合道会 四段 堀 公美佳さん
まだ23歳ながらも13年以上修行している堀さんは現在四段、かなりいい切りのできる女性でかなり仕上がっており、体幹がしっかりしているのが伺えます。体が柔らかいのでしょうか、指導されたことがその場ですぐ修正できるところはやはり大したものですよ。

得意技は浮雲、苦手なのは制定5本目袈裟斬りだそうです。

（稽古を拝見している限り不得意には見えなかったのですが・・・）

ここにも将来の居合道を牽引していくであろう楽しみな剣士が日々稽古に精進しているのです。

九州北部での豪雨災害により、甚大な被害を受けられた皆さまに対して、心よりお見舞い申し上げます。

今号より2回にわたり昇段された4名の方に寄稿いただきました。

略儀ながら書面にて御礼申し上げます。後進の指導の方も引き続きよろしくお願い申し上げます。

居合道初心者講習会の参加や問い合わせがいつもの通り始まっております。今年から9月を待たずに早々に稽古を始めて良いということで広報も活発に動き回っておりますが、皆様方には無理難題にご協力いただいておりますことを深く感謝いたします。

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第132号 平成29年8月1日発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL: <http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田 36 番地 -1

TEL:092-322-0847